

自閉症スペクトラム当事者からみた 特別支援教育

NPO法人東京都自閉症協会
綿貫 愛子



独立行政法人教職員支援機構

目次

1. はじめに
2. 私の自閉症世界から
3. 特別支援教育のなかで
4. おわりに

1. はじめに

1. はじめに

- 自閉症スペクトラム障害（ASD）の症状には、本人たちなりの意味がある。
- 特別支援教育のなかで、子どもたちは期待される言動が分からないので、“自己流”でがんばっている。
- 共有経験が子どもの発達を支え、心身を育てていく。自分の特性を使いこなしていく。

2. 私の自閉症世界から

2. 私の自閉症世界から

◇ Ochs & Solomon (2010)

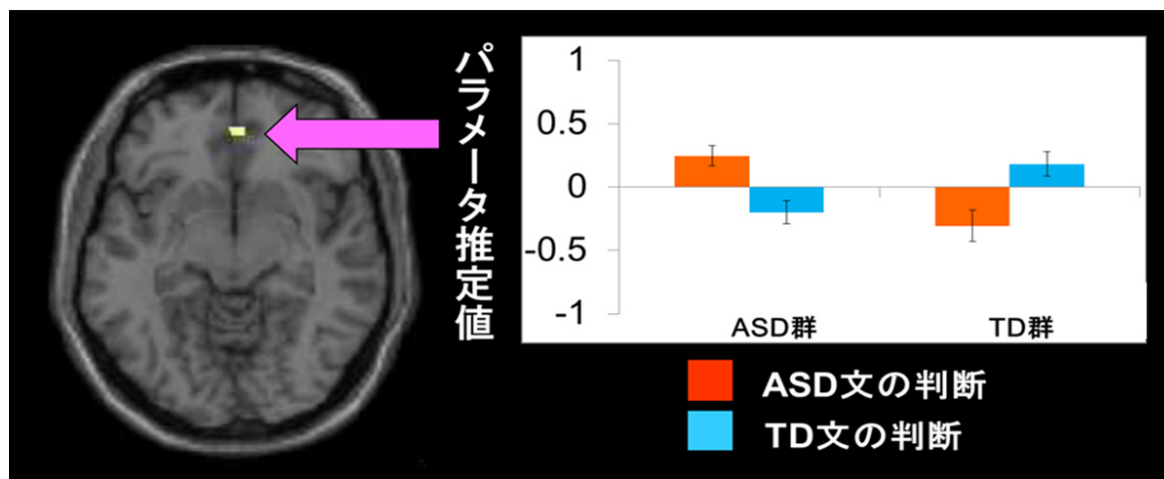
ASDのコミュニケーション様式 「自閉的社会性 (Autistic sociality)」

- ・ 会話連鎖が短い
- ・ 話題は客観的知識
- ・ 対面的ではない身体配置
- ・ アートや動物が交流を仲介
- ・ 控えめな感情表現
- ・ やや早めの会話テンポ など

2. 私の自閉症世界から

◇ Komeda et al. (2015)

自分と似ている他者に
共感しやすい「**類似性仮説**」



ASDのある人は、ASDの行動パターンをする他者に対してよく共感できる。

共感や自己意識と関連する腹内側前頭前野が有意に活動。

2. 私の自閉症世界から

◆ ASDの「心の理解」の発達

命題的心理化とは、「○だから△と考える」という命題による理由づけ

◇ 別府 (2016)



- 命題的心理化による補償で「心の理解」をする質的な違い
→ 特異性、ユニークさが生じる

2. 私の自閉症世界から

◆ ASDコミュニケーション

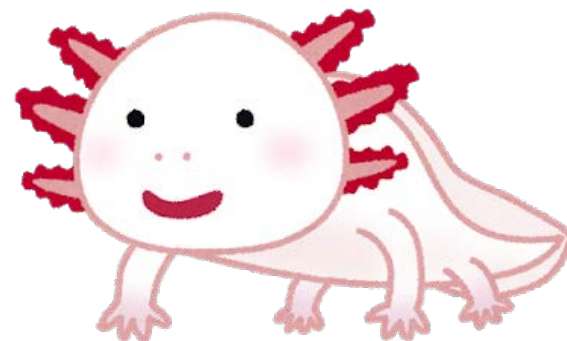
あたまつんつんしてください

リモコンくん、いま何て言ってる？

- ・相手にしてほしいことを要求する。
 - ・物の気持ちを代弁してもらおう、知っていることでも何回も聞く！
- ▶ 身体感覚や好きなことを共有することで情動を共有するやりとり。

〇〇する？
〇〇ある？

＼クレーンでもやるよ！／



2. 私の自閉症世界から

◆ ASDの様式美（好み）

反復と洗練

繰り返す・持続する動きへの没頭

ひらひら、くるくる、ぴよんぴよん！

同じであること

特定のものや状況を一定に保つ

習慣や儀式、秩序、調和、変化への抵抗

粒度が高いこと

情報の細部に注目し、深める

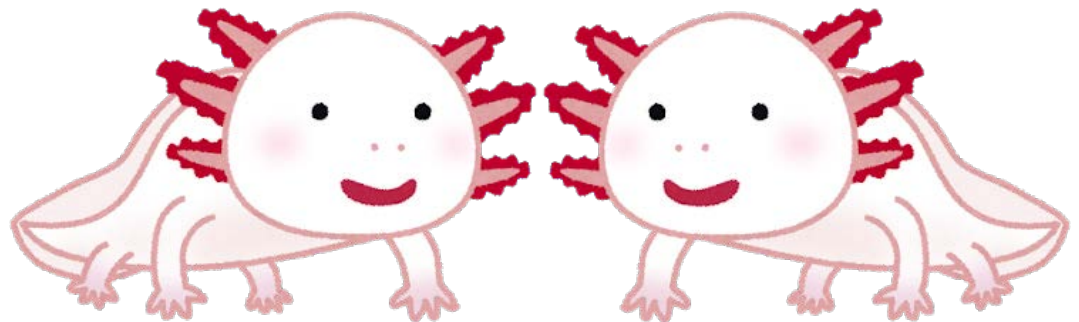
説明が詳しい、マニアック

3. 特別支援教育のなかで

3. 特別支援教育のなかで

◇ 木村（2009）

「自己とはこのようにして、自己と世界とのあいだ—現在の事物的世界とのあいだだけでなく、
当面の他者とのあいだ、所属集団とのあいだ、
過去や未来の世界とのあいだなどを含む—の、
そしてなによりも自己と自己とのあいだの関係
そのもののことである。」



3. 特別支援教育のなかで

◇ Merleau-Ponty (1945)

自己理解とは、障害特性を理解することではない

自己とは、自らの身体の自発性に基づいた身体的主体。
自身を取り巻く環境や他者との相互作用を知覚することで
自己の存在が規定される。

→ 周りの環境や他者を抜きにして自己は成立しない。
自己理解は、さまざまな「経験」であるといえる。

生態学的
自己

対人的
自己

概念的
自己

時間的
拡大自己

私的
自己

Gibson(1979) & Neisser(1995)

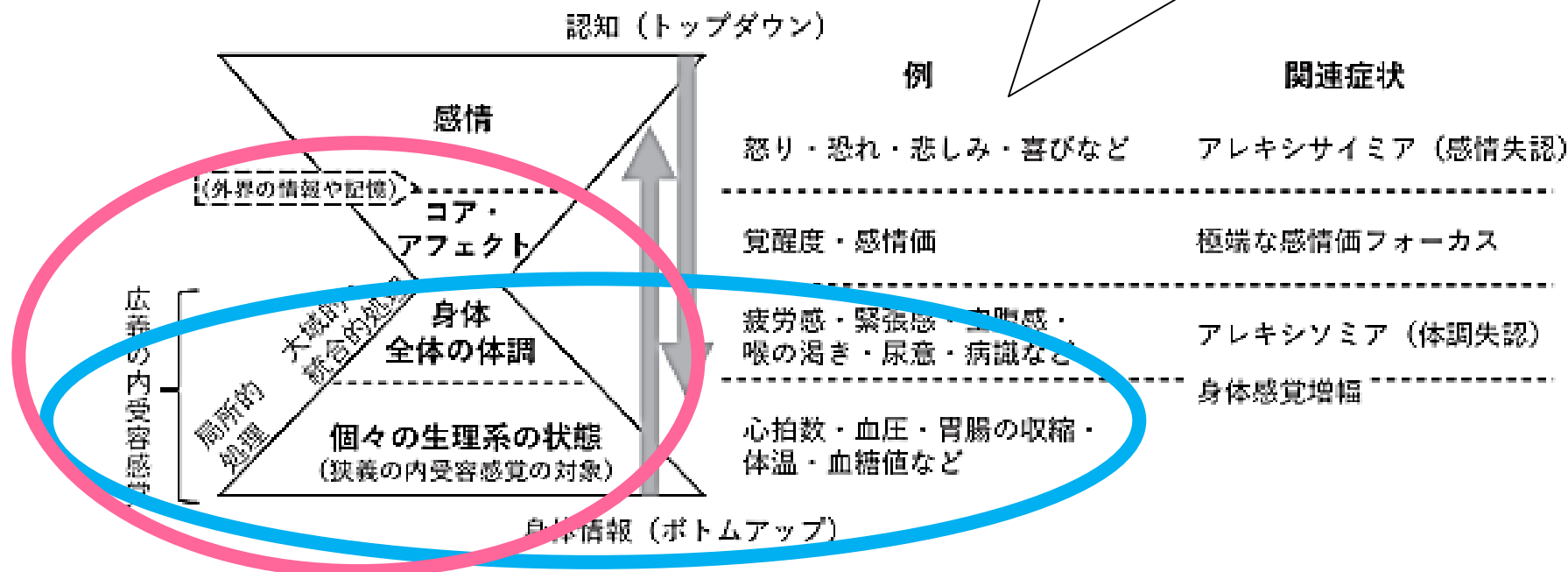
3. 特別支援教育のなかで

◇ 福島 (2018)

◆ 身体を通して感情を知る

ASD者は、内受容感覚に敏感である一方で、正確性が低いことが知られている。

ASDの半数に、アレキシサイミア傾向がみられる。



内受容感覚と外受容感覚を統合する難しさ

内受容感覚のアンバランスさ

3. 特別支援教育のなかで

関係のなかで
子どもは発達する

◆ 関係の発達を支援する

「心の内側で共に自生的になり、彼らの特別な関心事を分かち合い支えてあげてください」

(Asperger, 1965)

◇ 別府 (2012b)

- ・ ASD児者が有する独自の感覚や理解に寄り添い、共感する。
- ・ 一緒に互いへの情動を感じ合う相互主観的な経験と関係。

→ 情動共有経験の保障は安心感をもたらすとともに、自分の心をとらえたり、他者の思いを認めたりする姿につながる。

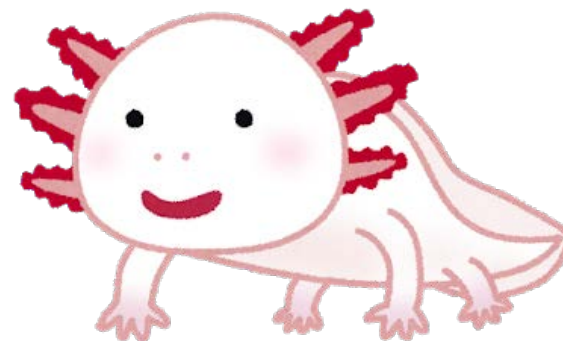
3. 特別支援教育のなかで

◆ 関係の発達を支援する

うちの子は、ごっこ遊びをしないし、遊びがないのよね？



マンホールの規則性が気になるなー
かわいいなー楽しいなー

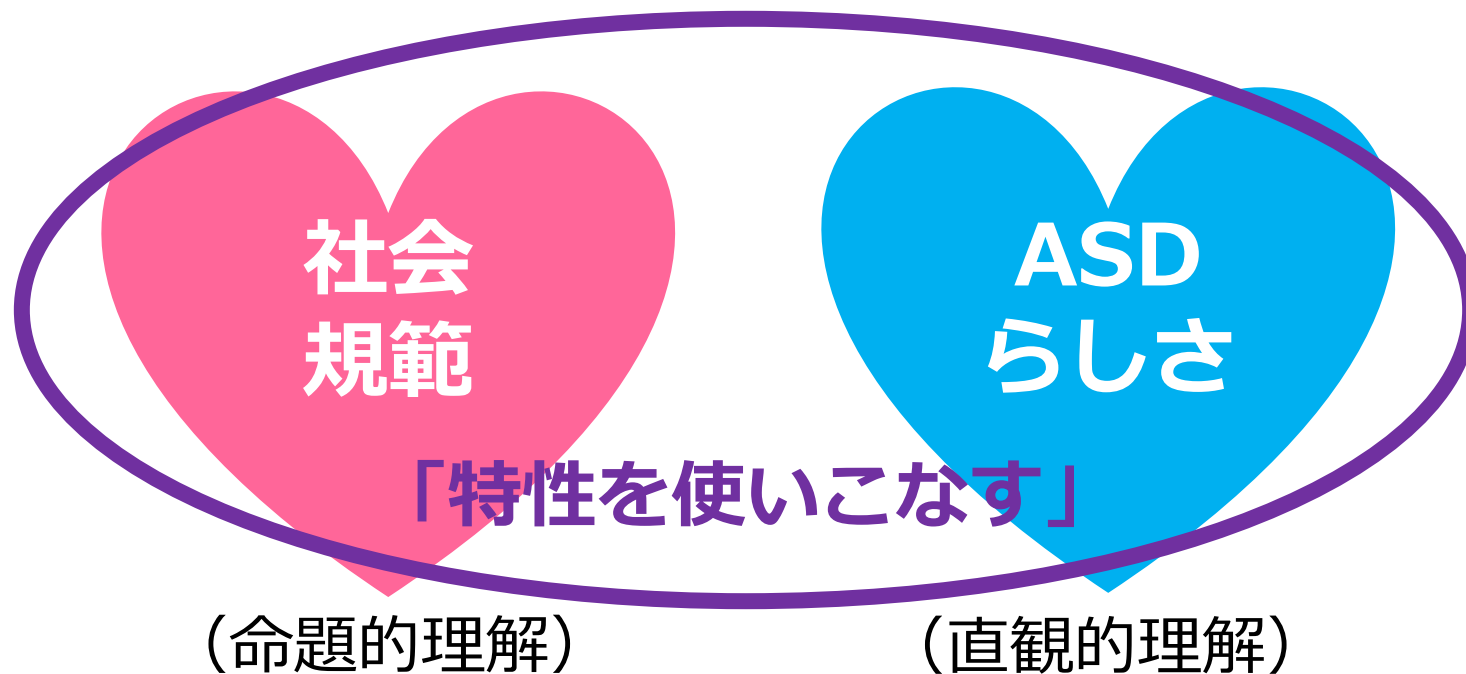


☆ 間主観的アプローチ

子どもがいま何を見ているのか
を見てみよう！

3. 特別支援教育のなかで

◆ 特性を使いこなすことを支援する



- ・ 社会参加の機会を保障するために、社会規範の知識は必要。
- ・ ASDらしさも、否定されない自分らしさ・自分の力の一つ。

▶ 定型発達モデルからの脱却

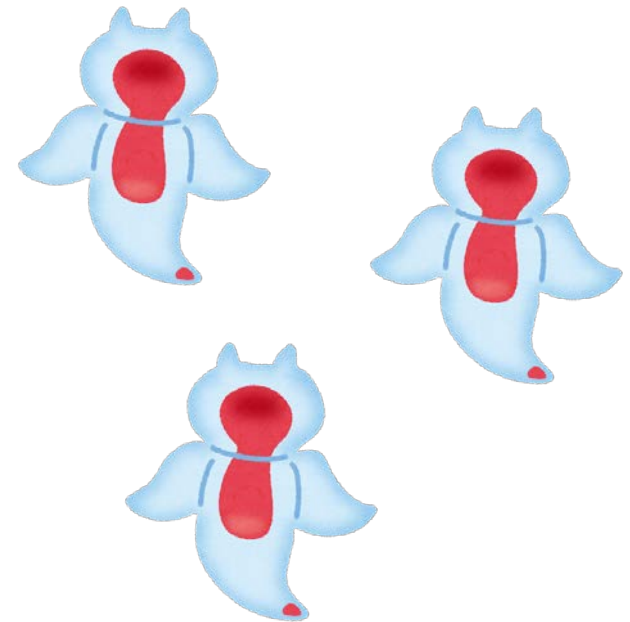
4. おわりに

4. おわりに

「本当の意味で『子どもを発達的に見る』というのは、
『相変わらずできないけれども、“できなさ”が以前とは違ってきている』ということを見つけることです」

(玉井, 2018)

- 支援が効果的に進んでいくと、依然として「できない」なかでも、できなさに変化が生じてくる。
- ☆ できなさの変化のなかに、本人の
がんばりをみることができる。
→共有し、支えてあげてください。



引用文献

- Asperger, H. (1965). 油井邦雄 (訳) 児童期の自閉的精神病質 :Prof. Dr. Hans Asperger, 解説・翻訳. 精神科治療学 23, 229-238.
- 別府哲 (2012a) 心の理論の障害と支援 本郷一夫 (編) 認知発達のア
ンバランスの発見とその支援 pp31-56. 金子書房
- 別府哲 (2012b) コミュニケーション障害としての発達障害 臨床心理
学 12, 652-657.
- 福島宏器 (2018) 身体を通して感情を知る 一内受容感覚からの感情
・臨床心理学― 心理学評論 61, 301-321.
- 木村敏 (2009) 第IV章 自分であるとはどのようなことか 関係として
の自己 みすず書房 pp86-107.

引用文献

Komeda, H., Kosaka, H., Saito, D. N., Mano, Y., Fujii, T., Yanaka, H., Munesue, T., Ishitobi, M., Sato M, & Okazawa H. (2015). Autistic empathy toward autistic others. *Social Cognitive and Affective Neuroscience*, 10, 145-152.

Merleau-Ponty, M. (1945). *Phenomenologie de la Perception*, Gallimard. 中島盛男 (訳) 1982 知覚の現象学 法政大学出版社

Ochs, E & Solomon, O. (2010). Autistic sociality. *Journal of the Society for Psychological Anthropology*, 38, 69-92.

玉井邦夫 (2018) エピソードで学ぶ 子どもの発達と保護者支援——発達障害・家族システム・障害受容から考える 明石書店

自閉症スペクトラム当事者からみた 特別支援教育

NPO法人東京都自閉症協会
綿貫 愛子



独立行政法人教職員支援機構